

平成28年7月4日～7月10日までの全国の暑さ指数（WBGT）の観測状況及び熱中症による救急搬送者数と暑さ指数との関係について (お知らせ) (平成28年度第8報)

1. 目的

環境省では、暑さ指数(WBGT：湿球黒球温度)の予測値・実況値について、今年度は、5月13日(金)から情報提供を開始しました。今般、全国の熱中症患者数が急増していることから、暑さ指数の情報提供に加え、暑さ指数の推定精度の高い約150地点について、過去1週間程度の暑さ指数の観測状況、暑さ指数と熱中症による救急搬送者数との関係について、定期的に情報提供を行っております。本情報等を活用し、広く熱中症の予防にご協力いただきますようお願いいたします。

2. この期間(7月4日～7月10日)の全国の暑さ指数の観測状況について

暑さ指数31℃以上(危険)の時間数 (168時間中)

1. 石垣島(沖縄県)	37時間
1. 久米島(沖縄県)	37時間
1. 南大東島(沖縄県)	37時間
4. 西表島(沖縄県)	27時間
5. 与那国島(沖縄県)	24時間

<参考>全国9都市の観測地点(暑さ指数31℃以上)

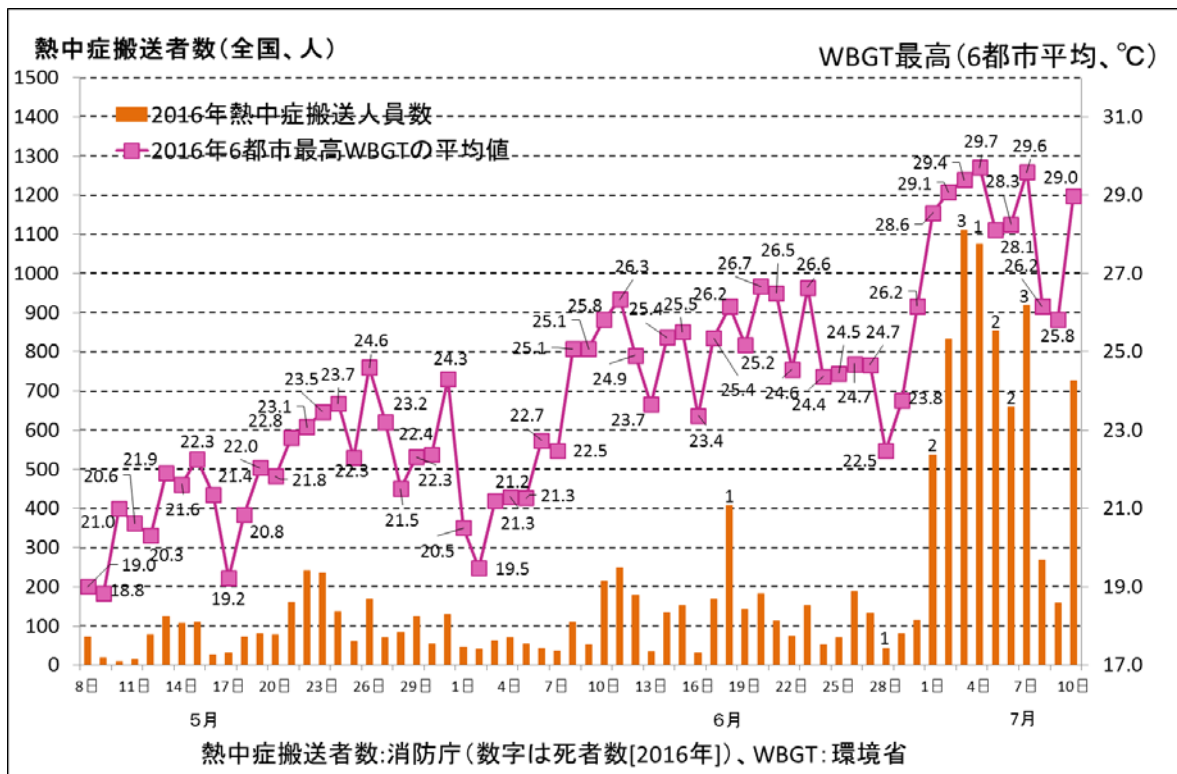
札幌(北海道)	0時間
仙台(宮城県)	0時間
新潟(新潟県)	0時間
東京(東京都)	2時間
名古屋(愛知県)	0時間
大阪(大阪府)	4時間
広島(広島県)	0時間
福岡(福岡県)	5時間
鹿児島(鹿児島県)	11時間

(注1) 暑さ指数は、これまでの調査結果による推定手法を用いて、気象庁の観測資料から推定した値です。

(注2) 暑さ指数31℃以上の時間が、今週は沖縄・奄美地方の全地点と九州から関東にかけて所々でありました。また、東北地方南部から九州地方にかけての広い範囲で28℃以上となった地点がありました。なお、暑さ指数31℃以上、28℃以上とは、(公財)日本体育協会の指針において、それぞれ、運動は原則中止レベル、嚴重警戒レベルです。

3. 6都市の日最高暑さ指数(WBGT)と熱中症による救急搬送者数(全国)との関係

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



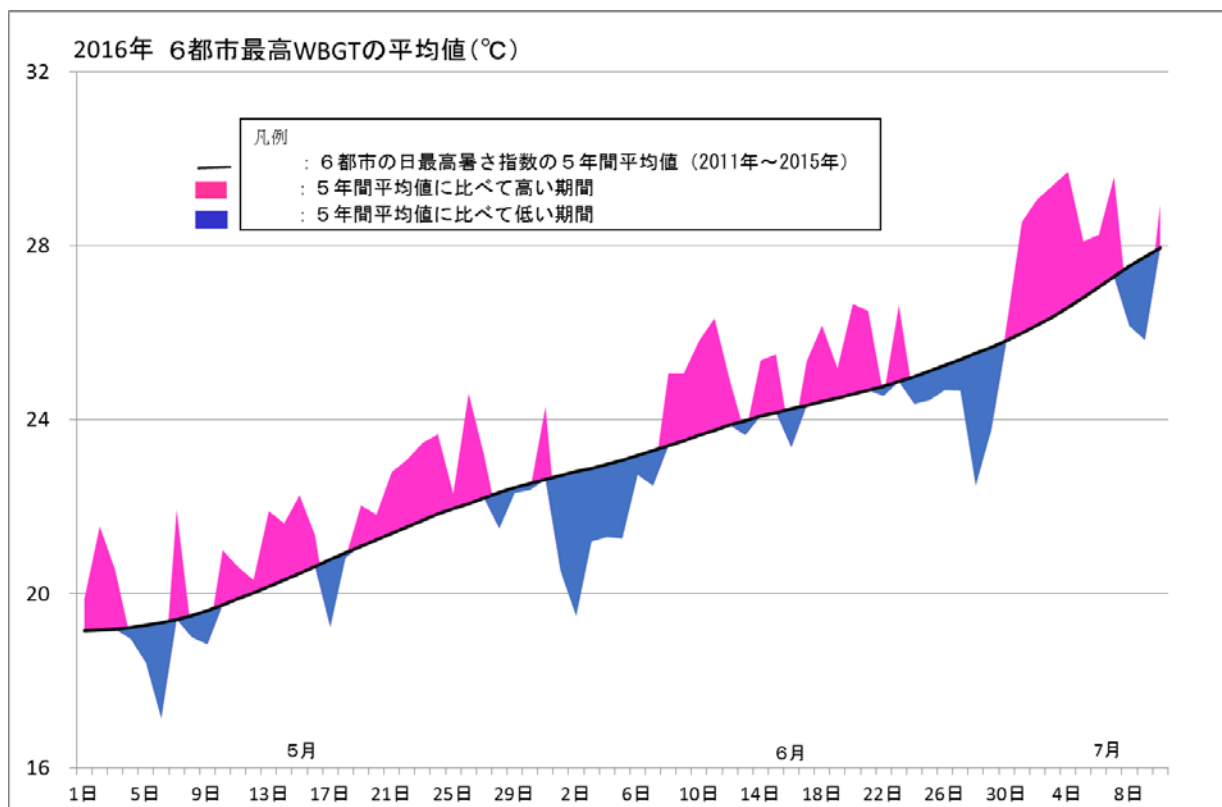
- 6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、7月4日～7月10日までの期間は25°C以上で経過し、特に期間の前半は前週から引き続き過去5年間の平均よりかなり高い状態となりました。熱中症による救急搬送者数は、消防庁発表の速報によると4日には1000人を超え極めて多くなったほか500人を超える日が多くなりました。今期間中に8人の方が熱中症で亡くなりました。
- 沖縄・奄美地方から関東地方にかけての所々で、熱中症危険度の「危険」を示す31°C以上となる時間がありました。また、東北南部以南の各地では、「嚴重警戒」を示す28°C以上の地点が多くなっており、広い範囲で熱中症に警戒が必要な状態が続いています。
- 気象庁発表(7月13日11時時点)の週間天気予報によれば、「最高気温・最低気温とも、北日本から西日本は平年並か平年より低い見込みですが、期間のはじめは平年より高い所があるでしょう。沖縄・奄美は平年より高い所が多いでしょう。」とされ、また、7月16日からの約1週間は、沖縄では気温が平年に比べてかなり高くなる確率が高いという情報も発表されています。このため、これまでより暑熱環境としては緩和される可能性もありますが、梅雨明けの時期を迎え、平年の暑さであっても十分に熱中症への警戒が必要です。
- 湿度が高く、晴れた日には気温も高く蒸し暑くなります。特に高温になる日には、無理な作業や運動をせず、こまめな水分補給や休息をとるなど、体調管理に注意してください。

(注) 6都市における暑さ指数は、環境省の観測と気象庁の観測資料から求めた観測値です。

6都市：東京、新潟、名古屋、大阪、広島、福岡

4. 2016年の6都市の日最高暑さ指数と過去5年間平均（2009～2013年）との比較

6都市：東京都、大阪市、名古屋市、新潟市、広島市、福岡市



6都市平均の日最高暑さ指数(WBGT)は、7月8日、9日を除いてかなり高い傾向が続いています。十分な暑さ対策を心がけてください。